国づくり 会づくり 人づくり 宿づくり

JCHA 清水新会長が方針

全日本シティホテル連盟（JCHA）清水嗣能会長

社会の役に立つ団体へ

全日本シティホテル連盟（JCHA）は、6月19日に開催した平成29年度通常総会で、新たな会長に清水嗣能氏（ホテルリバージュアケボノ）を決めた。会員ホテルの中から会長が選ばれるのは4年ぶりのことだ。観光振興が国主導で力強く進められている今、清水新会長はJCHAをどう導くのか。また、バトンを渡した前会長の藤野公孝最高顧問は清水新会長に何を期待するのか。業務執行理事の内山美樹さん（ホテル明治屋）がそれぞれに聞いた。

内山「就任おめでとうございます。まず新会長としての抱負をお聞かせください」

清水「藤野前会長が、『地域づくり』はJCHA事業の一丁目一番地と言われた。初めて話を聞いた時は『ああ、そうなのか』という程度の感じ方だったが、会長代行として、また藤野会長と一緒に日本観光振興協会や他の宿泊団体などの総会に行くと、観光関係のお歴々が『これからはDMOをやっていかなければいけない』と言う。東京ばかりではなくて、各地域に外国人観光客に来てもらう工夫が全国レベルで求められている」

「日本はだんだん人口が減っていく。われわれが得意としていたビジネス客も減る。ビジネスマンだけに頼っていられない。お客さんがあっても外国人が増えても、それをお世話する働き手がだんだん少なくなっているのも大きな問題だ。その両面を解決していかなければいけない」

「ホテルは全国に1万軒もあるのに、日本ホテル協会は約240軒、JCHAは準会員を合わせても625軒で、組織率は両団体を足しても1割以下だ。これでは少ない。もっと会員数を増やして、JCHAをホテル業界のベーシックな団体にしていきたい。なぜなら、われわれホテル業界の声を行政に届けなければいけないからだ。建築関係の規制などホテルを取り巻く法律をいろいろと改正し、現実に合わせていきたい」

内山「では具体的に新会長として何をやっていきますか」

清水「私は創ることが昔から大好きで、自分のホテルを創っていくのも非常に楽しい。JCHAで創りたいものを『国づくり』『会づくり』『人づくり』『宿づくり』の四つのジャンルに分けた。この国づくりは、藤野前会長が来られてずいぶんと進んだ。これからは、自分のホテルの利益だけではなくて、地域があって自分があるという考え方がますます重要になってくる。自分のホテルに人を呼ぶためには、まず自分の地域に行ってみようと思わせなければいけない。その次に、では地域の中でどこに泊まろうかという順番になる。外国人にとって日本はすごく魅力があって、行きたい国だ。これだけ外国人客が来ている中で自分たちの施設、観光地、それからホテルと観光地を結ぶ交通手段、そういったところを改めて見直してみるとバリアフリーが十分ではない。障壁になっている。それをJCHAが主体になって外国人が宿を拠点に観光地に行きやすい環境に整備しなければならない」

内山「それが国づくりの一つの取り組みですね」

清水「JCHAをどうするかという内部的なことだけではなくて、JCHAが宿泊団体として何ができるかという外部的なことを積極的にやっていきたい。国が繁栄し、地域が繁栄し、そして自分たちのホテルが繁栄する。全部つながっている。われわれには公的宿泊団体として社会的な使命、役割がある。それをもっと前面に出していきたい」

内山「そして、会づくりですね」

清水「JCHAは昭和46年に発足し、やがて50年を迎えようとしている。今、正会員が205軒、準会員も含めて625軒という陣容だが、まだまだ少ない。組織を運営するうえでもっと役員、委員会メンバーがほしい。ホテルが1万軒あるのだから、まず千軒の数字を目標にしたい。会づくりでは、情報連絡網の整備も必要だ。これまで理事会で話をした内容が会員に伝わっていなかった。今どういうことをやろうとしているのか、それを会員が把握できる状態にしなければならない」

内山「会のインフラを整備するところから始めていくということですね」

清水「人づくりの対象は経営者だ。青年部や従業員を対象にするのなら話は分かるという理事の意見もあったが、私は経営者こそが地域づくりや町おこしの先頭に立つべきだという考えから、それができる人づくりをしていきたい。地域の役に立ち、日本の役に立ち、自分の生きてきた存在意義をそれぞれの会員が示せるような方向に持っていきたい。人づくりはすなわち意識づくりだ。お互いに意識を高めるための情報交換の場を持つのも、JCHAとしての一つの役割だ。ネットでも情報交換はできるが、同じ経営者が集まって話すことで1＋1が2以上になることがある。また、その方が楽しい」

内山「そう。まず楽しくなくてはいけない」

清水「それは重要なキーワードだ。最後の宿づくりだが、これは根源的なことで、みんな自分のホテルをより良くしたいという思いで集まってきている。数年前、うちのホテルのユニットバスにヒビが入った。十何室あって、修理すると300万円かかると言われた。明日から工事が始まるという時にたまたまJCHAの理事会があって、ある理事から『俺のところにもそういうことがあった。それは欠陥品だ。うちはお金払わずに無償で直してもらった』と聞いた。すぐにホテルに電話して工事をストップした。実際の利益につながる情報はありがたい。そういう経験は内山さんもありませんか」

内山美樹業務執行理事

内山「たくさんあります。構えて何かの情報を取りにいくというわけではなくて、雑談のなかに『えっ、そんなことあるの』という話がいっぱいあった。腹を割って相談できるので、私たちのような経験の浅い経営者には本当に助かります。話がだんだんメリットの方に来ましたが、今後会員を増やすためにはJCHAとしてのメリットがすごく重要になってきます」

清水「メリットは、会員みんなの業態が近くて、こっそり聞きたいこともお互いに教えられる場があるということが大きい。それは入ってみないとなかなか分からないことかもしれない。JCHAにまず興味を持ってもらうにはNHK放送受信料の優待制度をはじめとしてメリットがあることを端的に分かりやすく伝える必要がある。伝えるにはマスコミの力が大きい。他の宿泊団体もメリットはあるが、JCHAは何が違うのかというと準会員制度。これまでチェーンホテルから、JCHAからの情報が入るのは本部だけでいいのだが、単体のホテルごとに会費がかかるのはナンセンスだという話があった。そこで議決権は法人につき一つ、それぞれの単体のホテルは準会員として安い会費で入会できる制度を作った。これはJCHAの一つの売りになっている」

内山「考え方として画期的でした」

清水「それでNHKをはじめいろいろな事務手数料が入るわけなので、その収入を研修など会員へのメリットづくりに使える」

内山「清水会長は以前からここをアカデミーにしたい、学べる場にしたいと仰っていました。私もこの協会でたくさん学んできました。同じ年齢の仲間がこんなに頑張っているのだから私も負けられないと」

清水「JCHAの女性会員はすごい。特に役員はみんな頑張っている」

内山「実際問題、人がいないとか、時間的な制約、あるいは距離的な制約があって参加できない人は多いと思う。かつて私も『現場の仕事があるから行けない』と躊躇していましたが、思い切ってやってみると何とかなりました。そして、何とかなった以上のものを得られた。これは現場を捨てても、やりくりをして行かなくては、という気持になれたのがJCHAです」

清水「そのように思ってもらえるからこそ、内山さんには今回、業務執行理事としていろいろと女性の立場からご意見をいただきたい」

内山「微力ながら頑張り、新会長を盛り立てていきます」

清水「ありがとうございます」

新旧会長へのインタビューは和やかな雰囲気で行われた（東京のJCHA本部で）

藤野前会長からエール

会員と共に考える会長に

内山「藤野前会長には2期4年間、JCHAに貢献いただいた。この4年間を振り返ってみていかがですか」

藤野「私は政治家をやっていたから、最初は『藤野内閣』と偉そうに言っていた。だが、会長も会員もない、みんな平等の『藤野チーム』という感じで、この4年間、何回かの危機を乗り切れた。改正耐震改修促進法や最近では民泊の問題などに、何か仕掛けをして功を奏したというよりは、みんなで一丸となって取り組んでいった。最近、『JCHAがなかなか頑張っている』とあちこちで言われた。藤野チームの一段一段コツコツと登っていく姿勢が対外的に認められた証だ」

藤野公孝最高顧問、前会長

内山「藤野前会長が最初に掲げたスローガンが『小さくてもダイヤモンド』。小規模でも地域で光る存在になれ、と。JCHAは個人経営者が多い。その言葉は非常に会員の励みになりました。藤野チームで特に力を入れた点は」

藤野「最初に『インバウンド』や『地域活性化』といった事業のキーワードを示した。だが、それだけではみんなを鼓舞できないので、4年間をかけて地方の支部を全部回った。地域には地域の問題がある。その問題に私がうまい答えを出したのではなく、一緒に悩んだり、一緒に考えたりした。身近なレベルでみんなと話をして、『藤野が会員目線で話のできる人とは思わなかったよ』といった感じで心を打ち明けてくれた。東京で会長として上から目線で話をしても全く通じない。みんなの結束を強めるためには地域のレベルでやらないとだめだとつくづく感じた」

内山「政治家の人は遠い存在と私も偏見を持っていました。しかし、私たちと同じ目線で考えてくれているのがひしひしと伝わってきました。清水新会長に期待することは」

藤野「清水会長の言う『国づくり』『会づくり』『人づくり』『宿づくり』のうち、国づくりは観光立国のことだと理解している。観光立国の国というのは観光立地域の集まり。観光で地域を元気にすること。それぞれの地域で『小さくてもダイヤモンド』で頑張っているのがJCHAだから、国づくりは一番力を発揮できるところだ。清水会長もそのことに気づき、この前の就任演説で地域が元気になることが重要と言われた。今までそんな言葉は聞いたことがなかったから共感し、もう私から改めて言うことはありません。後は頼むよとエールを送る気持でいる」

「清水会長は福井で自分のホテルを経営し、ホテルコンサルタントになれるぐらいホテル経営のことをよく知っている。そこが私と全然違うところだ。会員を引っ張っていく、ホテルが抱える問題に対して答えをあげるのではなく、一緒に悩み一緒に考える姿勢を示すことで、会員みんなに『JCHAに入っていて良かった』と思ってもらえるような会長になっていただきたい」

JCHAの事業とは

01 施設、接遇の改善及び経営の合理化等に関する調査研究及び指導

02 ホテルに関する情報の内外への提供

03 ホテル従業員の資質向上

04 内外の宿泊サービスに関する情報、資料収集及び提供

05 関係官庁および関係機関との連携協調

06 その他本連盟の目的を達成するために必要な事業

ご入会のメリット

❶ 会員ホテルの広告・宣伝　❷ 経営者セミナー、研修会　❸ 経営に役立つ情報の提供　❹ 顧問弁護士による講習会・相談　❺ インバウンド（外客誘致）の宣伝　❻ 経営相談コーナーの設置　❼ 後継者育成塾（青年塾）　❽ 全国の会員ホテル様と交流ができます　❾ NHK放送受信料がさらにお得になります　❿ 各支部の活動に参加できます

JCHA とは、一般社団法人全日本シティホテル連盟の略称です。
JCHA 及び加盟ホテルは、健全、快適で効率的なサービスをそれぞれに相応する料金で提供する全国の優れたホテルで構成する観光庁所管の社団法人です。当連盟は、昭和 46 年 11 月 15 日設立され、昭和 49 年 10 月 4 日に運輸省（現在：国土交通省）の許可を受け社団法人となり、健全・快適でリーズナブルな料金で提供するホテルの施設・接遇の改善を図り、内外旅行者の利便の増進、わが国観光事業の発展と国際親善に寄与することを目的としております。

泊まりたい、そんなホテルに出合えます。
一般社団法人 全日本シティホテル連盟
JCHA – Japan City Hotel Association –
http://www.jcha.or.jp

一般社団法人 全日本シティホテル連盟
〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-12-19 五反田 NN ビル 2F
電話　03-6672-6960　FAX 03-6672-6966